

取材のお願い>

2023年10月30日

信州大学農学部

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

さくらサイエンスプログラム推進本部

モンゴルの若手研究者らが信州の森林保全と造林技術を学ぶ ～人と環境の共生に関する国際的共同研究を目指して～

信州大学農学部では、11月6日（月）～11月12日（日）、モンゴル国立大学より大学生3名、大学院生3名、ポスドク1名、教員1名、計8名を招へいし、人と環境との共生に理解がある優れた森林技術者の育成を目的とした、科学技術体験プログラムを実施します。モンゴル国立大学は、同国の政府や民間の森林管理部門を担う人材を多く輩出する国内最高レベルの大学です。

モンゴルの森林は国土の約2割を占め、農業および生活用水において重要な水源涵養機能を担っています。また、地球温暖化抑制のために重要な炭素の固定源でもあります。しかし、大幅な気温上昇、食葉性昆虫害の頻発、マツ属における線虫病（マツ材線虫病）の侵入で森林の衰退が懸念されています。モンゴル政府では2030年までに10億本の植林をする計画を打ち出しましたが、造林技術や森林衰退対策を担う人材育成は遅れているのが現状です。一方、長野県はカラマツを主要な林業とし、マツ材線虫病の被害拡大など、モンゴルの森林と高い類似性が認められます。

本プログラムで招へい者らは、本学農学部の演習林・手良沢山ステーション（伊那市）で、造林や育林、木材流通現場見学を行います。また、松本市の松枯れ激害地、松川村の里山管理現場を訪問し、造林技術や森林保護技術を学びます。さらに、根羽村にて木材加工施設や山地酪農、乳製品生産施設など、中山間地の森林活用の現場を視察し、地域産業と研究の繋がりについて理解を深めます。本学の学生とのディスカッションでは、森林管理技術の最適な形での社会実装のあり方について掘り下げます。本プログラムが、モンゴル国立大学との継続的な共同研究に向けて、大きな一歩となることが期待できます。

本プログラムは、科学技術振興機構（JST）主催の「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」*に採択されたものです。

*「国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）」科学技術分野における日本と海外の青少年の国際交流を推進する、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の事業です。一般公募プログラムでは大学等の日本の機関が作成する科学技術体験、共同研究、科学技術研修に関する青少年の国際交流計画の実施経費を JST が支援します。 <https://ssp.jst.go.jp/>



つきましては、招へい者らが講義を受ける様子、本学農学部手良沢山ステーションにて実習をする様子、松本市の松枯れ激害地、松川村の里山管理現場、根羽村などを訪問する様子、共同研究の打ち合わせをする様子などを取材していただきたくお願い申し上げます。なお、実施担当の安江恒准教授へのインタビュー取材もアレンジが可能ですので、ご希望の方は担当者までご連絡くださるようお願いいたします。

- 【実施内容】 ●講義「Advanced Study for Environment Science」
 ●手良沢山ステーション訪問（造林育林現場見学、森林資源量把握実習等）
 ●松枯れ激害地視察（松本市） ●里山管理現場見学（松川村）
 ●根羽村訪問（根羽村役場、同村森林組合、複合施設「ネバーランド」）
 ●共同研究打ち合わせ、学生交流

【実施場所】 信州大学伊那キャンパス、同手良沢山ステーション（演習林）
 松本市、松川村、根羽村役場、根羽村森林組合、ネバーランド

【研修日程概要】

11月6日(月)	午前：入国 午後：伊那へ移動
11月7日(火)	終日：講義「Advanced Study for Environment Science」(信州大学伊那キャンパス) 両大学参加者の研究紹介、意見交換会
11月8日(水)	造林育林木材流通現場見学、 (終日 同手良沢山ステーション・演習林 (伊那市))
11月9日(木)	午前：松枯れ激害地視察（松本市） 午後：松枯れ被害下における里山管理現場見学（松川村）
11月10日(金)	午前：根羽村役場 午後：木材加工施設見学（根羽村森林組合） 山地酪農見学、「ネバーランド」内の乳製品生産施設訪問（根羽村）
11月11日(土)	午前：共同研究打ち合わせ、学生交流（信州大学伊那キャンパス） 午後：東京都内へ移動
11月12日(日)	午前：成田へ移動 午後：離日

■ 本件に関する取材お申し込み

信州大学農学部総務グループ(庶務担当)
 (担当：加藤)

■ 本件に関するお問い合わせ

信州大学農学部 安江

■ 国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）に関するお問い合わせ

JST さくらサイエンスプログラム推進本部企画運営室

https://form2.jst.go.jp/s/kouhou_form (担当：田中(禎)、太田)